

えんのう ICT だより

平成29年3月6日
第 2 号
北海道遠別農業高等学校
情報教育推進委員会発行

昨年12月に、東京都の先進的なICT教育の視察を行いました。運用方法等では課題もあるようでしたが、その充実した環境はとても素晴らしいと感じました。（プライバシーの関係で写真はありません）

1 荒川区立第三中学校

清水校長が対応してくださり、これまでに取り組まれたこと等についてお話しいただいた後、実際の授業も見学させていただきました。校舎の設備も見せていただき、印象に残ったのは、教科教室型を採用している点でした。授業になると、その教室へ移動して受けるスタイルのため、教科担任が授業の準備をしやすいだろうなあと感じました。

次は、学校図書館（図書室）の環境です。清水校長も仰っていたのですが、広さは一般的な学校より少し狭く感じますが、授業で使いやすいようレイアウトが工夫されており、図書の配架も工夫されていました。何より、図書の管理が電子化されており、検索機能があり、自分が希望する図書を調べることができるというのは魅力でした。また、学校になくても、区内にあれば司書の方がすぐに取り寄せてくれる点も魅力的でした。

清水校長よりICTを活用した授業について、次のことを教えていただきました。

【仮説】 ICT活用授業を行うことにより、人間関係形成能力を高め、課題解決能力の育成ができる。

【成果】 1 電子黒板等を用いて発表するので、前に出て発表することに抵抗感がなくなる。

2 発表に注目するようになる（見やすい、視覚的支援）。

3 聞く姿勢が身に付く。

4 自分の意見を伝えることへの抵抗が少なくなる。

2 東京都立足立高等学校

足立高校では、定時制課程の先生よりお話を伺うことができました。授業の中での活用では、ICT環境が整っているが、使いやすさの点では課題が見られるなどのお話を聞くことができました。ただICT機器を入れればよいというわけではないことがよくわかりました。その後、副校長先生が校舎内を案内してくださいました。全教室にプロジェクターが配備されていました。都立高校のスタンダードとのことで、うらやましく感じました。

3 東京都立杉並総合高等学校

副校長先生にご案内いただき、数学の授業を拝見しました。授業は、少人数での実施で、生徒1人1台のタブレットを使い、教師が提示する問題にタブレットを通して回答する、というものでした。ゲーム感覚で取り組むことができ、問題も即座に解答・解説を行うので、飽きのこない楽しい授業でした。

◇ まとめ ◇

今回の視察では、様々な発見がありました。思いつくままに箇条書きで記載します。

- 1 東京都立高校では、全学級に黒板取付型のプロジェクターが整備されている。
教室環境としてはうらやましい。東京都は予算が潤沢にあるようです。
- 2 教室（学校）内には、常設の無線設備が必要である。
ルーターを授業前に準備することは、手間と時間がかかる。台数が限られているので、同時に複数の教室では使えない。情報（パソコン）教室でいいのではないか。
- 3 ただ単に、ICT機器を整備するのではなく、性能や使いやすさを考慮して導入すべき。
Windowsなのか、iOSなのか、Androidなのか。Officeや教室管理ソフト等のアプリケーションも考慮すべき点である。
- 4 各教員が作成した教材を積極的に共有すべき！
情報機器の操作が苦手な先生でもすぐに使えるようにすることが、普及するための第一歩。教材が少ないので、得意な先生が作った教材を共有できるシステムがあれば・・・。
- 5 苦手なら、得意な生徒に使い方を聞いてみる。
機器の接続の仕方など（生徒に聞いても支障のない範囲であれば）、積極的に生徒に聞くべし。コミュニケーションがとれるし、活躍の場も提供できる。
- 6 ICTを使うことが目的ではない！！
あくまで、教科の目標を達成するためのツール（道具）であることを忘れてはいけない。それであれば、ただの遊びの時間になってしまう。が、まずは教員が使ってみなければいけないので、慣れることから・・・。

本校には、前号でご紹介した環境が整っています。

「使ってみたいなあ」というレベルから「いつでも使える」レベルに進化しました。

あとは、使い方、使うタイミングです。

課題もありますが、まずは触ってみる。使ってみる。そしてモニターに映してみる。

次年度の活用に向けて情報収集をしておきます・・・。

視察させていただきました「東京都荒川区立第三中学校」の皆様、「東京都立足立高等学校」の皆様「東京都立杉並総合高等学校」の皆様、おいそがしい中、ありがとうございました。この場を借りて、感謝申し上げます。